

東京浅草中央ロータリークラブ

【週報】平成18年2月15日発信

第977回例会 第963号

会長:中村 義英 副会長:長沼 一雄 幹事:片岡 邦夫 会報委員長:藤野 勝彦

<2005-2006年度テーマ>

・超我の奉仕 ・超我の奉仕 ・20周年を迎えて、更に大きく『愛』の輪を	RI会長 カール・ウィルヘルム・ステンハマー 2580地区ガバナー 古宮 誠一 クラブ会長 中村 義英
今日の卓話 「世界理解月間に因んで」 東京浅草ロータリークラブ (株)マッキ-スリ-エム 代表取締役 牧野 光男 様 紹介者: 植木 榮 君	◎次回卓話予定(2月22日) 夜間例会 「テーマ/お楽しみに・・・」 落語家 立川 談幸師匠 紹介者: 植木 榮 君
<2月の卓話予定表>	
1月31日・2月1日	地区大会 / 振り替え休日
2月8日	3クラブ合同例会 神渡良平先生「人は何によって輝くのか」
2月15日	東京浅草ロータリークラブ (株)マッキ-スリ-エム代表 牧野光男氏
2月22日	夜間例会 落語家 立川 談幸師匠

[平成18年2月8日 第976回・3クラブ合同例会の記録]

【会長報告】<中村会長>

3クラブ合同例会は今回3回目になります。第1会の浅草クラブ、昨年の上野クラブ、大変素晴らしい合同例会でした。楽しい例会になるよう私達全員努力致しますので御協力の程、宜しくお願ひ申し上げます。

浅草・上野両クラブは月曜日が例会ですので、過去2回に比べ出席者が大幅に減少するのではと心配しましたが、約170名の方々の出席を頂き、ホストクラブとしてほっとしております。

さて、3クラブ合同例会のコンセプトは親睦と研鑽です。区内3クラブがたとえ年1回でも、このように同じ例会を持ち意見交換をしながら親睦を深める事は有意義な事だと思います。先週の地区大会で、RI会長代理の深川純一氏はロータリークラブは「社交クラブであり倫理を提唱する団体」だと力強く語っていました。

昨今経済不祥事が世間を騒がせています。幸いに私達ロータリアンは常に職業倫理・職業奉仕について研鑽しておりますので、経済不祥事などとは無関係だとは思いますが、「鉄は自らの鉄錆で自らの身を滅す」と3千年前お釈迦様が説法しています。自分の身に・自分の会社に錆がついていないか点検する場所としてロータリークラブを位置付けたらいかがでしょうか。

本日、講演を戴く神渡先生は「一偶を照らす」を信条としている倫理の人・道徳の人です。先生のご講演を聞く事によって、身に付いた錆が少しでも洗い落とされれば幸いです。

来訪者数	例会出席報告	会員出席率
ゲスト0名 ビジター 0名	第975例会	総数 49名, 出席42名, 欠席4名, 出席率 91.30%
	第973例会	修正変更/0名欠席 出席率 100%(免除 2名)
ゲスト2名 ビジター 4名	第976例会	総数 49名, 出席45名, 欠席1名, 出席率 97.83%
	第974例会	修正変更/4名欠席 出席率 91.30%(免除 2名)

ニコニコボックス

■東京あすかRC
3月14日、北分区IMへのご参加を宜しくお願ひ致します
■中村・片岡君
今日の3クラブ合同例会、宜しくお願ひ致します。

■宮沢、宮村、伊石、長堀、山尾、遠藤、古谷、原田
天笠、吉田、長島、長沼、松崎、長谷川、大塚、園部
齊藤、上野君
3クラブ合同例会を祝して！100%出席ありがとうございます。



卓話者

神渡良平先生 「人は何によって輝くのか」

人生には様々なことがあります。上り坂、下り坂、等の坂があります。それに加えて「まさか！」という「さか」が有るのを知ったのは、突然、私が脳梗塞で倒れ急遽入院してあやうく一命を取り留めた時でした。無事退院の後リハビリを兼ね36日間かけて四国遍路1400kmを歩き又スペインの巡礼路歩いて、それは正に覚醒の日々でそれによって様々なことが見

えてきて、私の人生観は180度変わり私は「一隅を照らす」ことを信条とする様になりました。

教育学者の森 信三先生の言葉に「人間は一生の間に会うべき人には必ず会わせる一瞬が存在する、早過ぎもせず、そして遅すぎもせず、大切な人間、その決定的な人間にはすれ違って欲しくない。そのために遠回りをさせたり辛い経験をさせ、悲しい思いをさせて、そうして機を熟させ、更に機が熟して、あゝそういう事なのかと判るという段階、状況になった時に一つの出会いを通じて「気付く」を与え、今より一段階上に引き上げてくれる人生の機会を与えてくれるのです。

私の四国八十八ヶ所巡りは正にこの事を体験するためにあったのだと気付かされたのです、ご縁をご縁として感ずる自分の感性を育ててみることが大切なことであることを痛感致しました。

また、内観道場に通って、道場の狭い空間の中で瞑想を行い自己の周りの事がこと細かく心の中に見えてきて、特に心の底から両親に対する感謝の気持ちがこみ上げてきたのでした。

次の詩はニューヨーク州立大学付属病院のある患者さんが書いて自分の病室の壁に貼ったものです。

詩 「神の慮り」(神のおもんばかり)

大きな事を成し遂げるために力を与えて欲しいと神に求めたのに、謙虚さを学ぶようにと、弱さを授かった。

偉大な事が出来るようにと健康を求めたのに、より善き事が出来るようにと病弱を与えられた。

幸せになろうとして富を求めたのに、賢明であるようにと貧困を授かった。

世の人々の賞賛を得ようとして成功を求めたのに、得意にならないようにと、失敗を授かった。

人生を楽しもうと沢山のものを求めたのに、むしろ、人生を味わうようにと、シンプルな生活を与えられた。

求めたものは何一つとして与えられなかったが願いは全て聞き届けられていた。

私はあらゆる人の中で最も豊かに、祝福されていたのだ。

人生には様々な出来事が起るしかし どの一つも無意味なものはない、意味があって大切な事に「気付かせよう」とする天の計らいがあって起きている事であって、だから拒否をせず受け入れられたら、私はそこから大きな「気付く」がやってくるのだと思います。拒否をしたら、いつまでも偽善者の俤になってしまうのです。

「気付く」ことによって道が開かれて行くのです、私はよかったと思っています。人生はそれぞれに成すべき使命をもってこの世に送られてきているのです、だからこそたった一回しかない人生を絶対に取りこぼしてはならないのです。どうか皆様方の人生を益々もって【一隅を照らす】光が宿りますよう願ってやみまん。